

参考資料 第3～4回犬山市総合計画審議会での意見整理

※●=第3回Aグループ、●=第3回Bグループの意見です。●=第4回Aグループ、●=第4回Bグループの意見です。

■問題・課題

1) 就職を機に若者が市外へ行ってしまわないか

- ①「大きい会社」、「安定した会社」を求めてしまわないか。
- ②大学生の就職にあたって、犬山市の企業を知る機会がない。
- ③高齢者は社会貢献や若者の支援をしたいと思っているが、活かしていない。
- ④男性が就職するところはあるが、女性が就職するところはあるのだろうか。

2) 適切な住宅が十分に供給されていない

- ①分譲住宅等が少ない。住宅メーカーにとって魅力がない。
- ②岐阜県内と比べると犬山市は家賃が高いが、愛知県内では安い。

3) 子育て世代には魅力を感じられないのではない

- ①学校、保育園等の施設が老朽化している。
- ②道路、踏切、商業施設等が赤ちゃん連れ（ベビーカー）に優しくない。
- ③公園やショッピングモールのような子どもと過ごせる場所があるのか。
- ④小さい公園はあるが、子どもを遊ばせられる大きな公園がない

4) 安全・安心な道路空間になっていない

- ①周辺自治体と比べて道路の幅員が狭い。
- ②歩車分離が十分ではない。

5) 観光のメリットを市民が感じていない

- ①観光のまちのイメージがあるが、あまり税金につなっていない。
- ②観光客のための観光都市ではいけない。住民とのつながりがあるのか。
- ③観光はいいが、観光で成り立たない。お金を落とす仕組みがない。
- ④国宝や城下町はあるが宿泊できる所が少ない。

課題間連鎖が起きているのではない

- ①課題が次の課題につながって、あるところで負のスパイラルが起きている。それを正のスパイラルに変えることが重要ではないか。

6) 遊びや食事の場が不足している

- ①外食も買い物も遊びも市外に行ってしまう。市民のためのレジャーがない。
- ②衣食住。食が非常に乏しい。
- ③41号沿いが、(名古屋から来ると)犬山市に入ると何もなくなってしまう。
- ④スポーツ施設がない。
- ⑤いわゆる「モール」がない。

7) 市民参加が消極的である

- ①犬山市は好きだが、「自分でよりよくしよう」ということには消極的。
- ②市もがんばっているようだが、関わりしろがまだ少ない。

8) 地域のつながりが希薄である

- ①住んでいても地元での普通の生活がないため、地域のつながりが希薄にならざるを得ないのではないか。
- ②日本のコミュニティと外国人のコミュニティが接続されていないかもしれない。

9) 今後、財政の維持が困難になる

- ①財政調整基金が少なくなって、パンクすると大変。
- ②全て（教育、インフラ等）に影響する。対策を考えないといけない。
- ③人口減少は税収減（住民税）につながる。

10) 環境への対応をどうするのか

- ①市民生活を確保した上で、いかにグリーンにシフトしていくか。

■考え方・コンセプト

1) 日常を大事にしている

- ①リアルな生活に結びついたものを望んでいると感じる。それを積み重ねることが持続可能ではないか。

2) 人口減少、高齢化、外国人住民の増加。

- ①今後、人口減少は流れからして逆らえない。それを前提として考えないといけない。
- ②高齢化が進んでくる。
- ③外国人が増えている。

3) 循環型社会をつくる

- ①経済・資源が循環する社会をつくらないといけない。
- ②環境都市を目指すことは都市間競争力を保つためや世界に発信するためにも必要。
- ③犬山市の中で循環する政策が大事。

4) 複合的に魅力を伝える

- ①環境のよさ、自然、歴史があることを伝える。
- ②文化、教育、産業が相乗的に地域の活力を生み出す。
- ③切り口によってみんな個性。見直してみると、よそにないものがあるかもしれない。
- ④自分のまち、自分を知ることが大事

5) 新しいものにチャレンジするまちづくり

- ①何か新しいものに取り組みめるような、市も新しいものにチャレンジするまちづくり。

6) 犬山ならではのまちをつくる

- ①利便性の確保と並行していかに犬山市の希少価値をどう上げるかが大事。他市と同じような都市を目指すことが本当によいのか？
- ②自然や歴史、文化、人が個性になる
- ③大規模商業施設が来ると他のまちと同じになってしまう。大規模商業施設の誘致が果たしているかどうか。

7) 10年先のありたい姿、イメージを考える

- ①政治、経済、社会、技術がどうなっていくのか（ペスト分析）。
- ②SDGs、パリ協定、COP26、世界全体がカーボンニュートラルに向かっていくことは、ファクターとして非常に大きい。

8) SDGsを意識する

- ①SDGsのテーマに向かっていく構造も大事。
- ②SDGsにとらわれ過ぎ、他と同じ基準でやると、個性が失われるのではないか。

9) その他

- ①1回外へ出た人は宝。犬山では得られない経験を積んで戻ってきて、犬山に活かして欲しい。
- ②高齢者も宝。
- ③歴史・文化をもう少し掘り下げて、宣言の中にも入れてもらいたい。
- ④総合計画は細かく修正していくことも必要。

※●=第3回Aグループ、●=第3回Bグループの意見です。●=第4回Aグループ、●=第4回Bグループの意見です。

■実現したいこと

1) 若者に住み続けてもらう、外へ出て戻って来てもらう

- ①10代・20代前半ぐらいが犬山市に残ってもらわないといけない。10年後の犬山はその年代がメイン。
- ②②テレワークが定着しつつあるなか、犬山市を選ぶ人が増えてもいいはず。
- ③若者が一度出て行っても戻って来てくれればよい（小中校で魅力に気づくことのできる環境の形成。外に出て何かを学んで戻って来てくれる）

2) 子ども・子育て世代に優しいまちにする

- ①子ども連れや子どもだけでも、安心して出かけられる環境が必要である。
- ②子育て支援のPRを図り、子育て・学習環境も充実させる。

3) 高齢者等が社会とつながるようにする

- ①時間的、経済的な余裕がある高齢者が社会貢献や未来への投資、若者の手助けをする気持ちに応える。
- ②高齢者には活躍してもらいたい。時間を自由に使える高齢者が経験を活かして活躍できるとよい。
- ③公共交通の維持もしくは改善。「自由に移動できるまち」。

4) お金を落とし、回る仕組みをつくる

- ①循環できる社会を作ることが一番発展できることではないか。
- ②地元還元していく仕組みが必要。そうすると観光客が来たときに感謝できる。
- ③農業、商業、工業、サービス業が全部一連でつながっていることが大事。

5) 市民が地域活動や行政に参画している

- ①市民、特に若い世代が、主体的に活動したり行政にかかわっていくことが今後10年を考えると重要なのではないか。
- ②市民参加がもっと進むといい。市民のアイデアがまちを動かす、支える。市民参加しにくい人の声を行政に届けることも重要。

6) コミュニティの充実

- ①コミュニティがしっかりできれば、人が会う。会えば意見が出て、アイデアが生まれる（年代は多様であることが大事）。
- ②たくさんのコミュニティがあると、どこかに属することができる（ひっかかる）。
- ③コミュニティの中で認知症の人が暮らしやすい地域環境。地域の中で健康で暮らしやすい、病気になっても安心であるという地域を作っていくことは、誰にとっても安心なまちづくりにつながる。

7) 「やってみたい」を応援できるまち

- ①高齢者も現役世代も、いろんな世代の人がこんなことをやってみたいと思ったら、気軽に挑戦できる。それを応援できるまちであって欲しい。

8) 持続可能な財政を目指す

- ①投資効果をみんなで考えていくべきかもしれない。（効果的、効率的な行政運営）

■取組に対するアイデア

1) 働く機会に対する支援

- ①大学生、高校生に就職先として地元企業のPRやマッチングを行う。
- ②若者のビジネスチャンスと、高齢者の可処分所得をつなぐ仕組みをつくる。
- ③③テレワークの普及。自然豊かな犬山で仕事ができる環境を作る。
- ④アンケートではサービス業が人気。犬山でもできるといい。

2) 移住し、暮らし続けるための支援

- ①区画整理ができると、まちの雰囲気が変わる。
- ②住宅購入、就労、結婚、子育てなど、犬山で暮らすこと全般に対して情報発信や相談を行う（若者生活設計コンシェルジュ）。
- ③高齢者が（駅近等の便利なところへ）引っ越して、空いたところに若い世代を誘導し居住。（固定ではなく回していく。）
- ④若い世代が暮らしはじめられる状況を整える。

3) 循環型社会の実現

ア) 経済循環（市内でお金を使う場所・仕組みの整備）

- ①循環型（地産地消）で経済が回る仕組みを作る。
- ②②市内でお金を落とす仕組みも大事。（市民、観光客）
- ③③41号沿いに何かできると良い。
- ④川沿いに飲食店や遊興施設があるといい。
- ⑤教育、福祉、観光、産業などと文化が重なり合う空間（文化的コモンズ）をつくる。

イ) 資源循環（ゼロカーボン等への対応）

- ①2050年に向けて再生エネルギーなど企業としての取組みを促す。

4) 農業の魅力向上・関心喚起

- ①観光で名前が売れている。そのブランドを活かすと有利ではないか。
- ②子どもに向けた教育も含めて、田んぼを活用（メディアも注目、教育、若い世代も農業に関心を持つかもしれない）。

5) 市民活動（若者、女性の活躍）の場づくり

- ①若者が活躍できる場づくりや男女間のギャップ解消を、企業も含めて進めていく。
- ②特に若い世代が市民活動や行政に積極的にかかわっていくことを促す。

6) 移動手段の確保

- ①タクシーチケットをもっと使いやすいようにしてはどうか。
- ②コミュニティバスは東の方ほど不便になるが、そういった地域ほど移動手段の確保が必要ではないか

7) 活躍へのステップづくり

- ①思いがある人はいっぱいいると思う、話し合いの場を作ると動き出す。
- ②人を引っ張りだすような人。キーマンを作らないといけない。
- ③コミュニティの中で、いろんな年代の人が自分がやりたいことを「やってもいいのではないか」と思えるようなまちづくり

8) 魅力づくり

- ①ICT教育の強い学校にする。移住を考える人にとって良いのではないか。
- ②ベビーカーで公園や商店に安全にアクセスできるようにする。
- ③城下町だけでなく、いろいろなもの（歩道橋、自然、明治村、入鹿池など）を掛け算する。
- ④文化的なイベントを自然等の犬山ならではのツールを活かして定期的にやるとよい（行くたびに新鮮で楽しいと思えるイベント）
- ⑤河川空間の活用（健康やスポーツ等のために水辺・河川敷をもっと活用できないか（災害の備えも必要）。木曾川のキャンプ場や桃太郎公園の道をきれいにする。）

9) 魅力の[再]発見

- ①自分のまちを知る機会が必要（実際の生の声を聞くことや職業体験等も効果的）
- ②いいものが必ず埋まっていると思うので、そういうものを再発見して外に出すことで魅力は上がっていく。）

10) 魅力発信の強化

- ①①ICTや紙媒体（広報、回覧板、掲示板等）をハイブリッドで活用していけるとよい。
- ②地形的に災害には強いことを住宅購入のメリットとしてPR。（②濃尾地震、内陸型の地震を意識した方がよい。）
- ③もう少し広範囲的にこのエリア（尾張地区）の価値を高める。その上での犬山。個性は、自然、歴史、文化など。